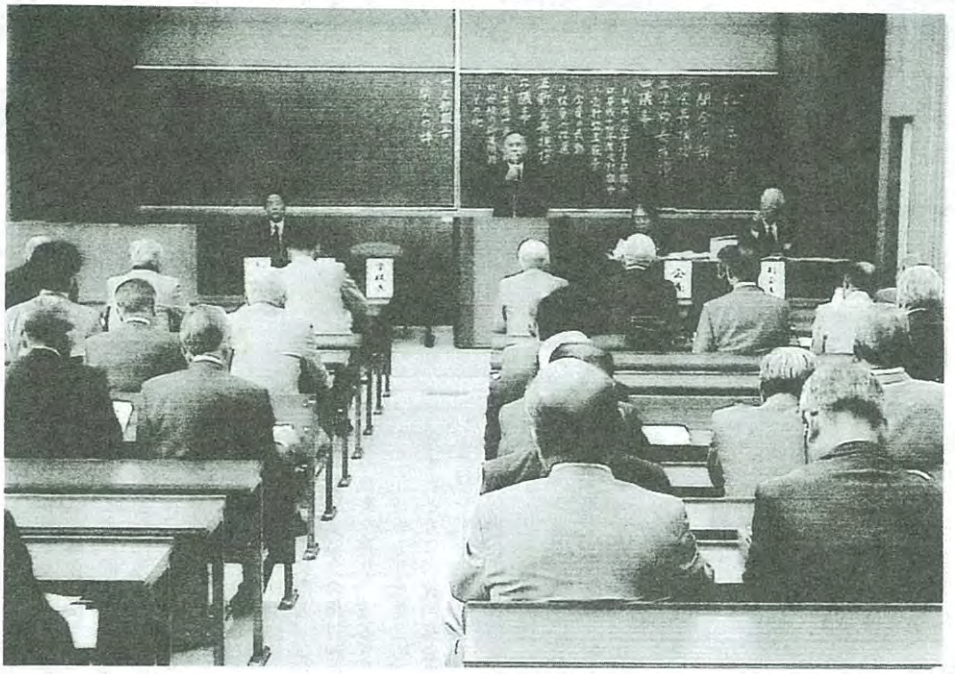
同窓会報

鳥羽商船同窓会
三重県鳥羽市池上町1番1号
郵便番号　517-8501
ＴＥＬ　代表　鳥羽(0599)25-8000
ＦＡＸ　　鳥羽(0599)25-8016
振替番号　00850-6-846



▶平成15年度総会

◀ 平成15年度総会

懇親会 ▶
（於鳥羽シーサイドホテル）

本部報告

平成一五年度本部総会

平成一五年度本部総会は、六月八日（日）一二時から母校の視聴覚教室において、来賓に佐藤修臣校長と林敬三郎事務部長を迎え、落合会長以下五二名の会員が出席して開催された。

本部総会開催に先立ち、斉藤隆副会長が昨年度総会以後の物故会員二五名のために一分間の黙祷を告げ、出席者全員が起立して冥福を祈った。

総会次第

一、開会の辞
二、会長挨拶
三、学校長挨拶
四、議事
イ、平成一四年度会務報告
ロ、平成一四年度会計報告
ハ、会計監査報告
ニ、会員の表彰
ホ、役員の改選
五、新会長挨拶
六、議事
イ、平成一五年度事業計画
ロ、母校の将来問題について
ハ、その他
七、支部報告
八、閉会の辞

次いで、以下に掲載の会長挨拶・学校長挨拶に続いて、議事に入り、斉藤副会長の司会により落合会長が総会資料を説明され、予定どおり約一時間審議の上、本部提出案が満場一致で了承された。

最後に各支部長が支部の近況を簡単に説明された。本総会を終えるに際し、落合会長が最近の名古屋大学と全学同窓会（会長は豊田章一郎前経団連会長）との関係に付言され、母校も同窓会と学校がより緊密な連絡をとり、会と学校の発展を期す必要があることを強調された。

総会の開催に際し、（社）全日本船舶職員協会の川村赳会長から次の祝電を賜り、披露された。

「平成一五年度総会のご盛会を祝するとともに、貴同窓会の益々のご発展を祈念いたします。」

また、総会出席者のために、H101・胡麻鶴美代氏（兵庫県三田市の玉皇山弥勒寺に公報係として勤務）が加賀御神水（2ℓ入ミネラルウォーター一二〇本）を寄贈され、希望会員が持ち帰りました。

会長挨拶

落合　弘明

平成15年度本部総会のご案内を差し上げましたところ、多数の会員がご参集下さいまして誠に有難うございます。同窓会に対する皆さんのご協力に心から御礼申し上げます。本日は休日にもかかわらず、校長先生及び新任の事務部長さんもご臨席賜りまして有難うございました。

さて、今年こそは平穏な年でありますように祈っておりましたが、新年早々イラク戦争が始まり、続いて、原因不明、治療方法不明、対応薬品なしという厄介なSARSの発生に、世界中が振り回されております。その上最近は、「東海地震」及び「東南海地震」の到来予想が「危機管理」の面から大きく報道されはじめ、社会不安をかきたてております。

同窓会におきましても、昭和56年挙行の、母校の「創基100周年記念事業」を支えて頂いた、当時の副会長、支部長及び理事の方々が相次いで鬼籍に入られまして、時代の変遷を感じております。

母校にとりましても、法人化の問題が予想より早く到来し、平成16年度に発足という状況にあります。この問題につきましては、のちほど校長先生から詳しいご説明があろうかと思いますが、教職員の身分が「公務員」から「非公務員」となる、大変な改革となります。

さらに「工業高等専門学校」に遅れをとっております「専攻科」の設置という難題にも対処しなくてはなりませんので、母校教官の一層の精進をお願いすることになります。今年から来年にかけては、母校にとりましては、大変革期が到来することになります。

一方、同窓会にとりましては、2年後の平成17年に「同窓会創立80周年」を迎えます。すでに、「同窓会報」を通じて、「記念総会」の開催が予告されていますが、これから本格的に準備体制を確立しなければなりません。のちほど審議をお願いいたしますが、「記念総会」という大事業を控えております。皆さんのさらなるご協力をお願いすることになりますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

昨年の総会では、時間延長で皆さんに大変ご迷惑をおかけしましたので、本日は時間厳守で進行させて頂きます。また懇親会は場所を変えまして、「鳥羽シーサイドホテル」で開催しまして、皆さんに、違った角度から鳥羽の風景をご覧頂こうと計画いたしております。皆さんの今後ますますのご発展を祈願しましてご挨拶とします。

校長挨拶

佐藤　修臣

昨年6月以降の本校に関する状況を、この機会に同窓の皆様にお知らせ致します。

先ず、皆様が最も関心をお持ちと思われます国立高等専門学校の独立行政法人化問題については、既にその概要は報道されておりま

すので、ご承知のことと思いますが、これ迄の経緯及び問題点等を本日お知らせ致します。

独立法人化について昨年　①各校が夫々独立法人となる（国立大学方式）、②　地域ブロックごとの方式（複数法人方式）、③全国55高専がひとまとめとなる方式（１法人方式）の考えがあることをお伝えしましたが、本年２月５日、急遽全国校長会が開催され、文部科学省から高等専門学校は、「独立行政法人国立高等専門学校機構」の下に法人化されることになるとの方針が明らかにされました。即ち、全55校を一括して「高専機構」の下で運営されることになりました。

同法案に因りますと、本校は、鳥羽商船高等専門学校の名称で三重県に設置するとなっております。機構法案は、去る５月22日衆議院で可決され参議院に送付されました。

独立法人化されたことにより、機構には役員として理事長、監事２名、理事６名以内を置くことになっており、内部機構として四課が設けられ、主たる事務所は、東京都に置かれます。理事長は、校長、三主事及び事務部長、三課長の任命を行い、その他の職員の任免及び人事管理は校長が行うこととなります。

一方各学校は、校長、三主事、事務部長、三課長体制となります。又各校には、外部の有識者によって構成し、校長の求めに応じ学校の運営について審議を行う評議委員会（仮称）を設けることになっております。

なお、職員の身分は非公務員となりますので、それに付随して様々な面で新しい対応が要求されます。

学校の具体的な運営はこれ迄と大筋で変更はないと思います。非公務員ということで、例えば、これ迄人事院の傘のもとで行われてきた身分関係の事項等が、その傘が無くなりますので新たな対応が必要となってきます。

高専機構は、本年10月１日に発足し高専の独立行政法人への移行は、明年４月１日となります。

次に、計画として皆様に報告しておりました１級小型船舶操縦士養成施設が、本年３月に認可され、今後卒業する学生にその免許が付与されることになりました。これ迄その設立及び教習艇について様々なご支援を戴いたことに感謝申し上げます。

なお、小型船舶操縦士養成の為にも欠かすことができない教習艇「あさま」の代船については、引き続き予算要求をしておりますが、今年度も実現しませんでした。

専攻科の設置については、引き続き努力しておりますが、現状の情勢を鑑みると平成17年度の実現にならざるを得ないのではないかと考えております。商船学科の船舶職員養成施設に関る人的対応と専攻科のそれとを同時に満たす必要があり、一層の努力を強いられておりますが、実現に向けて引き続き努力しております。

学生の指導については引き続き創意工夫を凝らさねばならない状況にあり、寮問題を含めて教職員一体で当たっております。その一例として、基礎科目（数学、英語及び国語）の補習授業を授業時間割に組み込み、ボトムアップをすべく対応しております。正直な話、入学生の学力に大きなバラツキがあり、その様な対応が必要で、大学でもその様な対応をしているところが少なからず有る様です。

最後になりましたが、母校への皆様のご支援を引き続き戴きたくお願い致します。

平成14年度会務報告

(一)　会員の移動

(1)　新入会員

正会員

Nコース	20名
Eコース	11名
M科	28名
I科	37名
計	96名

(2)　物故会員

N科	10名
E科	11名
計	21名
N科	1444名
（Nコース含む）	
E科	1723名
（Eコース含む）	
M科	473名
I科	390名
計	4030名

(2)　特別会員

N科	10名
E科	5名
計	15名

(3)　準会員（在学生）

S科	87名
Nコース	74名
Eコース	66名
M科	194名
I科	198名
計	619名

(二)　会員数

(1)　正会員

(三)　平成14年度会議

(1)　総会　１回

平成14年６月９日(日)、正午から、母校の視聴覚教室で開催され、来賓として佐藤校長が出席され、N科41名、E科29名、M科２名、計72名の会員が出席した。会則13条により総会成立条件は満たされた。総会に先立ち、物故会員に対し黙祷が捧げられた。

懸案であった母校の「創基120周年」の翌年だけに、例年に比較して出席会員数が若干減少したきらいがあるが、盛会であった。

落合会長から母校の「創基120周年記念事業」に対する会員の協力に対し感謝の言葉が述べられた。また佐藤校長から、母校の現状についての報告があった。次いで、議事次第に従って、平成13年度会務報告、平成13年度会計報告、創基120周年記念事業会計報告、会計監査報告、役員の一部改選、平成14年度事業計画等の提案議題が審議され、いずれも満場一致で承認された。

なお、会務報告及び会計報告について、その内容が多岐に亘っていたため予定時間をかなり超過する事態を招いた。

時間超過の原因は、創基120周年記念事業に関する報告に予想以上の時間を要したことがあげられるが、予定時間を大きく超過したのは本部の責任であることを痛感した。

総会において、下記の事項について会員からの質問及び提案があり、会長が回答された。

イ、財産目録の繰越金

ロ、母校と同窓会の関係

ハ、慶弔費の使用

ニ、会員の新聞広告の依頼

ホ、母校教官に対する研究費拠出

ヘ、総会の在り方

総会終了後、潮騒会館において懇親会が開催され、総会会場における雰囲気とは異なった和気藹々の懇親風景が展開された。

(2)　理事会　１回

平成14年６月９日、総会に先立って、母校「百周年記念資料館」２階の会議室において開催された。出席役員数は、理事24名、会計監

査1名計25名であった。

平成14年度会務報告、会計報告、母校の創立120周年記念事業報告、会計監査報告、同窓会創立80周年記念総会等総会提案議題について審議された。母校の法人化についても落合会長から報告があった。

(3) 支部長・本部理事会議　2回

a　第1回

平成14年9月18日（水）商船学科卒業式当日、平成14年度第1回の支部長・本部理事会議が母校の「百周年記念資料館」2階の会議室で開催された。出席役員は25名であった。議題は、「同窓会本部事務局の在り方について」と「母校の法人化問題について」で、落合会長より予め役員宛てに送付された関係資料を基に活発な審議が展開された。

前者については、会長の提案、出席役員の意見が集約され、本部事務局の在り方について、本部において議論を集約することが了承された。なお欠席者からは書面で回答が提出された。

後者については、落合会長からの資料を参考に、「国立高等専門学校法人化検討会」の立ち上げについての説明があり、今後予想される問題点について討議された。出席役員の総意として、「商船学科」の存続を考慮することが確認された。

b　第2回

平成15年3月6日(木)、電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業式当日、平成14年度第2回支部長・本部理事会議が「鳥羽国際ホテル」で開催された。出席役員は22名であった。議題は、「同窓会創立80周年記念事業」、「母校の法人化について」及び今後の同窓会活動その他であった。

審議は予め会長から送付された資料を基に展開され、「同窓会創立80周年記念事業」については、「鳥羽商船同窓会80年の歩み」及び「会員名簿」発行、慰霊祭、記念総会の在り方について検討され、本部において、今後さらに煮詰めることで了承された。また、「鳥羽商船同窓会80年の歩み」の原稿募集について、本部及び支部からの依頼原稿を集めることで、内容の充実を計ることが了承された。

母校の法人化については、落合会長から「高等専門学校法人化検討会」の中間報告の内容が紹介され、平成16年度に全国立高等専門学校55校が、「独立行政法人国立高等専門学校機構」のもとにぶらさがる形で法人化されることが報告された。さらに、落合会長に対する間宮文部科学審議官からの法人化に対する示唆の内容等が報告された。

同窓会の今後の在り方については、理事の定員について、会則に準拠して、60名以内に削減することが提案され、各支部で検討することとなった。また、落合会長が、理事の在り方について示唆された。

(四) 会報の発行

平成14年7月25日、平成14年度同窓会報第1号が発行され、総会報告、創基120周年記念事業総括、本部報告、会員の叙勲、支部活動、クラス会、学校便り、工業系学科卒業生の就職状況等が報告された。

平成14年12月25日、平成14年度同窓会報第2号が発行され、本部報告、会員の叙勲、支部活動、クラス会、学校便り、商船学科の卒業生の就職状況等が報告された。

(五) 対外活動

(1) J・S・A・F外洋東海支部主催の「パール・レース」を例年どおり支援した。

(2) 全国商船高等専門学校カッター・レースを例年どおり支援した。

(3) 母校の商船学科、電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業祝賀会を例年どおり共催した。

(4) 学生会活動を支援し、全国高等専門学校体育大会や国体選手として出場した学生に対し、奨励金を贈呈した。

(5) 全日本船舶職員協会に協賛費を負担し、商船学科卒業生の入会勧誘を行なった。

(6) 母校の近藤先生記念碑周辺の草刈りを6月及び9月の2回業者に委託した。

平成14年度会計報告

収支計算書

（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

1．収入

科目	予算	金額	差額
入会金（新入会員96名分）	100,000円	96,000円	△4,000円
会費（新入会員96名2年分）	400,000	384,000	△16,000
会費（一般・終身・特別会員）	4,000,000	3,577,000	△423,000
利子（郵便局・第三銀行預金分）	5,000	1,172	△3,828
名簿売上代金	300,000	263,500	△36,500
記念史売上代金	0	3,000	3,000
寄付金（一般寄付）	0	64,000	64,000
寄付金（総会）	0	77,000	77,000
繰越残高	6,161,588円	6,161,588円	
収入合計	10,966,588円	10,627,260円	△339,328円

2．支出

科目	予算	金額	差額
負担金（卒業祝賀会・学生会・商船高専カッター大会等）	350,000円	295,000円	55,000円
本部総会費用	500,000	436,000	64,000
支部通信費補助	310,000	290,000	20,000
会報印刷代金・送料	1,750,000	1,650,720	99,280
謝金	100,000	68,400	31,600
慶弔費	80,000	58,345	21,655
役員旅費	600,000	558,000	42,000
通信費（郵便料金・電話料金）	150,000	68,130	81,870
事務用品・消耗品	100,000	49,221	50,779
会議費	100,000	110,000	△10,000
百周年記念資料館整備・周辺環境整備費	100,000	65,670	34,330
会務運営費用	600,000	600,000	0
予備費（郵便振替払出料）	60,000	56,920	3,080
支出合計	4,800,000円	4,306,406円	493,594円
次年度繰越収支差額	6,166,588円	6,320,854円	

基金の部決算（平成15年３月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
利子(アセット信託銀行貸付銀行分)	3,025円		31,862,471円
利　子（第三銀行定額預金分）	4,868		
		0	
計	7,893円	0円	31,870,364円

同窓会創立70周年記念基金決算（平成15年３月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			359,188円
	0		
		0	
計	0円	0円	359,188円

収入が０となっているのは現金にて保管のためである。

母校創基120周年記念事業寄付金決算（平成15年３月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			1,663,190円
利子（郵政公社・普通預金分）	80円		
		0	
計	80円	0円	1,663,270円

財産目録（平成15年３月31日）

科　目	金　額	左の内容	金　額
繰越金	6,320,854円	貸付信託（アセット信託銀行）	7,000,000円
基金	31,870,364	金銭信託（アセット信託銀行）	279,444
同窓会創立70周年記念事業基金	359,188	定期預金（第三銀行）	7,680,802
母校創基120周年記念事業基金	1,663,270	普通預金（第三銀行）	426,450
		定額預金（郵政公社）	11,449,000
		普通預金（郵政公社）	10,549,981
		普通預金（郵政公社）	1,663,270
		郵便振替残高	96,044
		会員名簿残高（１７０部）	425,000
		アルバム残高（１３部）	15,600
		現金	628,085
計	40,213,676円	計	40,213,676円

会員の表彰

本年は役員の改選期に当たりますので、会員表彰規定に従い下記の会員に対し、表彰状及び記念品を贈呈します。なお、「平成15年度同窓会報第１号」に掲載し、会員に周知します。

本部
S42E　世宮　利郎
本部理事８期
（第６条　ロ項の適用）
S44E　江崎　隆夫
本部理事８期
（第６条　ロ項の適用）
京浜支部
S34N　村越　文男
本部理事３期半
S36N　簗田　秀平
本部理事６期半
S36E　石川　仂
本部理事７期半
名古屋支部
S36N　松浦　肇
本部理事２期、
支部長・副会長３期
S43N　小林　正司

会計監査報告

会計監査報告

平成14年度における、入会金、会費、会員名簿売上代金、寄付金等について、金銭受け入れ原簿、金銭支出原簿、収支計算書、財産目録、証券、預金通帳、郵便振替等と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適正であったことを認めます。

平成15年６月２日

会計監査　斎藤　希ニ
　　成瀬　正雄

役員の改選

☆事務局理事　★新任

本部理事９期半
神戸支部
S36N　飛田喜八郎
本部理事７期半

常任顧問
★S26N　松本　暢生
S43N　角谷　一成
★S3E　堤　好造

顧問
S7N　裕口　輝治
S10N　和田　道夫
S16N　佐藤　静雄
S16N　山崎　修
S17N　末崎　弘
S17N　西川　慶堂

S18N 小原　博
S19/12N 長谷川俊治
S19/12N 梶田　文弥
S19/12N 富岡　久
S19/12N 中島　好康
S21N 古妻　秀夫
S21N 島田　昭三
S21N 土屋　和男
S21N 中野　清文
S21N 長谷川好道
S22N 永田　修一
S22N 山本　茂
★S23N 坂本　実
S8E 高山　逸治
S9E 浅野　和彦
S10E 駒田　秀男
S16E 秋山　末雄
S16E 今高　光雄
S16E 尾崎　幸平
S17E 南　秋雄
S18E 北岡　万二
S19E 上野　和泉
S19E 松本　幹
S19E 村井　憲次
S19E 鷲尾　松久
S19/12E 上村　賢治
S19/12E 谷水　長生
S19/12E 東爪　佐七
S22E 大塩　重夫
★S23E 片岡　久雄

会　長

S22N 落合　弘明

副会長

S19/12N 根本　明
S24N 待井　信一
S27N 梅村　伸雄
S33N 片山　勝則
★S33N 菅原　昌男
S36N 松浦　肇
S27E 斎藤　隆
S27E 千々波天信

支部長・理事

〈本部・伊勢志摩支部〉

支部長
S30E 古川　昭一

理事
☆S36N 森　良雄
☆S39N 中村　武史
S42N 金田　護
☆S48N 鈴木　秀司
☆S41E 田中　節男
☆S43E 世宮　利郎
S47E 岡本　楠清
S48E 橋本　晴行
☆S53E 中村　俊輔
☆H3M 出江　幸重
☆H7I 宮崎　典

〈北海道支部〉

支部長
S24E 桜井　明

〈京浜支部〉

支部長
S42N 田中　三郎

理事
S30N 上山　浩
S32N 辻　裕
S38N 井上　信也
S43N 水野　正治
S48N 古屋　勤
S49N 大橋　秀章
S35E 菱田　司
S36E 石川　仂
S37E 小野　斗章
S39E 可児　紘之
S42E 金咲　行雄
S44E 江崎　隆夫

〈静岡支部〉

支部長
S26E 堀三矢之助

理事
S33E 尾鷲　綱三

〈名古屋支部〉

支部長
S42E 竹川　俊幸

理事
S41N 丹羽　幸彦
S43N 小林　正司
S48N 菅沼　延之
S48N 宗接万太郎
S52E 加塚　伸吾

〈四日市支部〉

支部長
S37N 中澤　昌信

理事
S35N 中西　新治
S37N 石垣　三郎
S37E 山田　岑生
S43E 鈴木　敏行

〈大阪支部〉

支部長
★S34E 奥野　明

理事
S39N 宮沢　鋭多
S48N 野村　錦生
S52N 岡室　孝美

〈神戸支部〉

支部長
S32N 奥　正夫

理事
S31N 桑嶋　収平
S33E 西村　潔
S36E 飛田喜八郎
★S36E 小沢　剛

〈九州支部〉

支部長
S14N 青木留治郎

会計監査
S22N 斎藤　希二
S22E 成瀬　正雄

(註)
1、理事の定員は会則により60名以内と規定されている。「支部長・本部理事会議」において、定員を超過しないよう提案し了承された。候補者は各支部長から推薦に依るものである。
2、常任顧問の下村甚一郎会員が逝去され、地元鳥羽との関係を維持するため、後任として、松本暢生理事に就任を依頼した。

平成15年度事業計画

一　平成15年度会議

(1) 総会　1回
平成15年6月8日(日)、鳥羽商船高等専門学校において開催し、平成14年度会務報告、平成14年度会計報告、会計監査報告、会員の表彰、役員の改選、平成15年度事業計画等を審議する。
　平成16年度に国立高等専門学校の法人化が決定されていることから、母校における対応等について諮問する。
　平成17年には、「同窓会創立80周年」を迎えるので、「記念行事」、「鳥羽商船同窓会80年の歩み」、「会員名簿」等一連の関係事項について審議する。

(2) 理事会　1回
平成15年6月8日(日)、総会に先立ち、鳥羽商船高等専門学校「百周年記念資料館」において開催し、総会提案議題について審議する。また、平成14年度における「支部長・本部理事会議」において継続的に審議してきた、同窓会の将来問題についてさらに討議する。

(3) 支部長・本部理事会議　2回
　平成15年9月17日(水)、母校の「商船学科」の卒業式当日、鳥羽商船高等専門学校「百周年記念資料館」において開催し、「同窓会創立80周年記念事業」の推進、母校の法人化につき、同窓会の対応について検討する。また、同窓会の将来問題についても討議する。
　平成16年3月8日(月)、母校の「電子機械工学科」及び「制御情報工学科」の卒業式当日あるい

はその前後において開催する。卒業式当日は週日であるため、支部長が出席できない例がみられるので、年2回の「支部長・本部理事会議」のうち、1回は休日開催の要望もあるため、目下検討中である。工業系の卒業式の雰囲気が馴染めないという意見も考慮する必要がある。

二　会報の発行

平成15年7月20日を目標に、「平成15年度同窓会報第1号」を「総会特集号」として発行し、平成14年度会務報告、平成14年度会計報告、会計監査報告、会員の表彰、役員の改選、平成15年度事業計画、支部報告、クラス会、学校便り、新入会員、会員の移動等を周知する。

平成15年12月20日を目標に、「平成15年度同窓会報第2号」を発行し、本部報告、支部報告、クラス会、学校便り、新入会員、会員の移動等について周知する。なお、法人化の具体化と母校の将来問題について報告する。

三　対外活動

例年どおり下記の事項について対外協力を行なう。

（1）J・S・A・F外洋東海支部主催のヨット・レース「パール・レース」を後援する。

（2）全国商船高等専門学校カッター・レースを後援する。

（3）母校の「商船学科」及び「電子機械工学科」、「制御情報工学科」の卒業祝賀会を共催する。

（4）母校の学生会活動を支援し、全国規模の体育大会への選手として出場する学生や、全国規模の工学的コンテストに参加し入賞した学生に対し奨励金を贈呈する。

（5）全日本船舶職員協会の協賛会員として協力し、「商船学科」卒業生の入会勧誘を行なう。

（6）母校の「近藤先生記念碑」周辺の環境整備に協力し、6月及び9月の2回草刈りを実施する。

（7）母校のカッター巡行を支援する。

（8）母校の「海学祭」に参加し、「百周年記念資料館」において、同窓生の作品展示を行なう。

平成15年度予算

1．収入

科目	予算案	平成14年との差異
入会金（100名）	100,000円	0円
会費（新入会員100名2年分）	400,000	0
会費（一般・終身特別会員）	4,000,000	0
利子（郵政公社・第三銀行普通預金分）	4,000	△1,000
同窓会名簿売上代金	300,000	0
前記繰越代金	6,320,854円	
収入合計	11,124,854円	△1,000円

2．支出

科目	予算案	平成14年との差異
負担金（卒業祝賀会・学生会・全船協会・商船高専カッター大会等）	350,000円	0円
本部総会費用	500,000	0
支部通信費補助	310,000	0
会報印刷代金・送料	1,700,000	△50,000
謝金	100,000	0
慶弔費	80,000	0
役員旅費	600,000	0
通信費（郵便料金・電話料金）	100,000	△50,000
事務用品・消耗品	100,000	0
会議費	100,000	0
百周年記念資料館整備・周辺環境整備費	100,000	0
会務運営費用	600,000	0
予備費（郵便振替払出料）	60,000	0
支出合計	4,700,000円	△100,000円
次年度繰越収支差額	6,424,854円	

母校の将来問題

一　法人化について

国立大学の法人化が終了後に浮上すると予想されていた、高等専門学校の法人化が、大学の法人化法案と平行して今国会に提出され、平成16年度に施行される方針が確定された。同窓会では昨年の夏以来、母校の法人化問題について、「支部長・本部理事会議」において討議する一方、同窓会報を通じて会員にも周知してきたが、法案提出時期が早まったことから、法人化の課題について考慮する必要がある。

昨年8月に文部科学省に構成された、「今後の国立高等専門学校の在り方に関する検討会」の中間報告が、さる2月5日に公表され、高等専門学校の法人化は、国立大学の法人化とはかなり違った方法で推進されることが判明した。国立大学の法人化は、単独あるいは合併した大学毎に実施されるのに対し、高等専門学校の場合は、新設される「独立行政法人国立高等専門学校機構（仮称）」下に55校がぶら下がる形として法人化される方針である。その理由は、高等専門学校の場合、人員及び予算規模から見て、単独では困難と判断され、従来から言われてきた、ブロック毎の法人化案が拡大されたと解釈される。

新聞報道されたことから、役員や会員からこの件についての問い合わせが会長宛てに殺到し、なかには入手された中間報告書の全文を送付された役員もあった。

会長が独自のルートで入手された中間報告書について、母校に連絡されたが、学校長が東京に出張中で、中間報告も受領して帰られるという話であったのみである。その後2月21日に検討会の最終報告書が発表されたが、その内容は中間報告に対する意見を踏まえて修正されたもので、下記の3項目から成る。

1、高等専門学校の目的・役割と現状
2、法人化の意義・期待される効果
3、法人化の制度設計

この中で、3の項目の中に今後の高等専門学校のあるべき姿が下記のように示唆されている。

（1）基本的な考え方
（2）法人化の単位
（3）根拠法
（4）各高等専門学校の位置づ

け等

(5) 役員及び運営組織
(6) 教職員の身分
(7) 目標・評価

この中で、(4) の項目において、1法人の下に設置される国立高等専門学校は、これまで通り、それぞれが学校教育法上の独立した学校として、高等専門学校の役割を果たしていく必要があると答申されている。従って、検討会の答申に基き法案が提出されることと思われるから、母校の場合も、平成16年度には現状どおり新組織に移行されることになる。

問題は (6) の項で問題となるのは、「諸規制の大幅な緩和と裁量の拡大」という法人化のメリットを最大限活用し、教職員の能力を十分発揮させるため、「非公務員型」とすることが適当であるという文言である。「非公務員」となれば兼業も可能となり、企業との共同研究等も容易になるというのがその趣旨であるように思われるが、現実的には極めて難しい問題である。

次に (7) の項で、中期目標・計画については、社会のニーズや科学技術の進展等に機動的に対応する云々とあるが、情報では中期目標・計画については、斬新で且つ高度なものが要求されているという。問題は法人化されて一定期間後に第三者により実施される研究・教育の評価である。評価結果は公表され、問題があれば改善が要求されることになる。

多くの会員から、母校の法人化についての情報伝達を要請されているので、今後とも「同窓会報」を通じて周知するよう努力する。この問題については、母校から同窓会へも積極的な情報提供が要望される。

二　専攻科設置問題

(1) 高等専門学校における専攻科設置状況

国立高等専門学校に専攻科が設置されるようになったのは、平成4年度からで、毎年2～6校に設置され、現在その数は39校に到達している。全国55校中専攻科設置校は既に70％に到達している。ちなみに公立高等専門学校5校中専攻科設置校は3校、私立高等専門学校3校中専攻科設置校は1校である。

専攻科設置のメリットは、専攻科修了後「大学評価・学位授与機構」の審査に合格すれば「学士」の学位取得ができ、大学院入学資格が与えられる。このことから、専攻科設置の高等専門学校と専攻科が設置されていない高等専門学校との間に格差があるような印象がもたれても致し方ない。

平成14年度の法律改正で、大学院の入学には学士の学位が必ずしも必要ではなくなったが、博士の学位を取得するには、学士の学位がない場合は「予備試験」に合格しなければならない点を考慮する必要がある。統計によれば、専攻科修了生の大学院進学状況は、専攻科設置当初は20％前後であったが、次第に上昇し、最近では28％に到達している。そしてこの傾向は今後も続くことが予想される。

最近では、「1年で修士」という社会人向け大学院修士課程の設置が目立ち、職業教育重視の試みが展開されている。東海地区においても、三重大学及び名古屋工業大学に設置されており、今後も増加の傾向にある。この意味からも専攻科の設置は急務と言える。

最近の情報では、「商船学科」の場合、専攻科の修業年限を1年半にしたらという意見もあると聞く。修業年限が5年半と、工業系学科に比較して半年長いことから、大学院への進学を考慮すれば有利と言える。もともと「商船学科」と工業系の「電子機械工学科」及び「制御情報工学科」の間に修業年限の差があることから、専攻科については、「商船学科」のみを1年半とするだけで良いことになる。

「商船学科」の専攻科の修業年限が1年半に短縮され、入学時期が9月か10月となれば、卒業は工業系の学科と同時期になり、大学院進学には都合が良い。しかし、「商船学科」を卒業して大学に編入した場合より1年早く大学院への入学資格が得られることから、大学側からクレームがでることも予想される。

修業年限が2年の修士課程を1年に短縮するには、文部科学省の認可は必要なく、学則の変更だけで良いことを考慮すれば、商船高等専門学校における、修業年限1年半の専攻科設置は実現可能と思われる。

(2) 専攻科設置の問題点

専攻科設置に際しては教授スタッフの審査があり、教授スタッフにおける博士の学位取得者数が規定されているから、この基準をクリアーすることが不可欠である。近年地方大学や、単科大学における大学院博士課程の設置が急増している現状から、以前に比較して博士の学位取得はかなり緩和されていると言える。母校教官の一層の精進に期待するところ大である。

次に工業高等専門学校に比較して、商船高等専門学校における博士の学位取得者数が少ない理由について考察する必要がある。高等専門学校の発足に際しては、教官については、国公立研究機関、産業界、教育界から各30％を目標に充足された。そして主幹大学において、教官の資格審査が実施されたことを考慮する必要がある。母校の場合は、専門学科教官については東京商船大学、一般教科の教官については、三重大学が主幹大学を担当した。

工業高等専門学校の場合は、近隣の総合大学や有名大学が主幹大学となった上、両者の間で人事交流や共同研究が推進され易い環境が形成されたので、博士の学位取得においても有利に展開したことが推定される。しかし、商船高等専門学校の場合は、発足当時、専門学科担当の主幹大学に博士課程が設置されておらず、共同研究も推進されなかったことも影響しているものと推定される。

各商船高等専門学校における専門学科の教授陣に博士の学位取得者が少ない現象は、発足当時は海運界が好調で、研究よりも教育優先の方針が展開されたため、主幹大学の商船学科との交流もない状況が長期間続いたことも影響しているように思われる。

この問題は時間的には余裕があるように思われるが、過去に神戸で開催された「同窓会創立60周年記念総会」、名古屋で開催された「同窓会創立70周年記念総会」の経験から、開催までに2年間は必要で

「同窓会創立80周年記念総会」

平成14年度に開催された、第1回及び第2回「支部長・本部理事会議」において、平成17年に迎える「同窓会創立80周年記念総会」について、本部提案の内容が検討され、各支部の意見が集約された。

あるように思われる。なお、記念事業における財源については、現在の社会事情を考慮して自主財源で賄い、募金活動は行なわない。

一、日時

平成17年6月上旬とし、祝賀会会場確保の関係で中旬となる場合もある。

二、記念事業

1、慰霊祭・合祀祭

母校「近藤　真琴」先生記念碑前で通例どおり行なう。

2、記念総会

「支部長・本部理事会議」及び支部からの意見として母校で開催する。

3、祝賀会

鳥羽市内のホテルで開催、現段階では「鳥羽国際ホテル」を予定している。

企画立案は本部事務局で行い、平成15年度第1回「支部長・本部理事会議」を目標に内容を立案する。

(1) 参加費

会員は6、000円、同伴者は4、000円とする。但し招待者は無料とする。

(2) 招待者

「理事会」、「支部長・本部理事会議」を経て決定する。

4、「鳥羽商船同窓会80年の歩み」発行

同窓会の10年間の活動記録、役員一覧、母校との共催事業、外部との共催事業等の記録と会員の体験談、会員による創作等を収録する。

(2) 原稿募集

すでに「平成14年度第2号同窓会報」において概要を周知したが、「平成15年第1号同窓会報」において原稿募集を行なう。「支部長・本部理事会議」において、本部からの委嘱原稿と各支部からの委嘱原稿について承認された。なお、従来どおり、支部の活動記録の収集等支部の協力をお願いする。

(3) 発行価格

1部3、000円を予定（原稿の量により多少の増加もあり得る）する。なお、執筆会員には1部原稿料として贈呈する。

(4) 発行部数

800～1、000部を予定している。会員からの購入希望により変化する。

(5) 発行資金

購入予定会員からの入金すなわち一般会計から支出し、財政状況によっては、一部について基金から拠出することもあり得る（財政状況による）。

5、会員名簿発行

平均3年毎に発行している「会員名簿」を「同窓会創立80周年記念号」として発行する。

(1) 内容

学科別会員の情報及び企業広告を収録する。

(2) 原稿募集

本部においては、平成15年度及び平成16年度総会案内や平成15年度及び平成16年度同窓会報を通じ、会員の情報把握に努力するが、今回は情報収集において、各支部の協力を依頼する。

(3) 発行価格

価格は送料込み3、000円を予定している。

(4) 発行部数

1、000部とする。

(5) 発行資金

会員による購入代金、企業からの広告代金、「同窓会創立70周年記念総会基金」を充当し、一般会計で処理する。

総会出席会員

N科（二四名）

S 14	青木留治郎	
S 18	落合　好明	
S 19	山本　太郎	
S 19/12	根本　明	
S 19/12	福村藤右衛門	
S 21	井上　三二	
S 21	清水　芳美	
S 22	落合　弘明	
S 22	斉藤　希二	
S 23	佐藤　斗一	
S 24	待井　信一	
S 30	上山　浩	
S 31	桑嶋　収平	
S 32	奥　正夫	
S 33	片山　勝則	
S 33	菅原　昌男	
S 36	松浦　肇	
S 36	森　良雄	
S 37	中澤　昌信	
S 39	中村　武史	
S 42	田中　三郎	
S 42	金田　護	
S 44	武田　雄三	
S 48	鈴木　秀司	

E科（二七名）

S 18	北岡　万二	
S 19	上野　和泉	
S 19	松本　幹	
S 19	村井　憲次	
S 19/12	東川虎之助	
S 21	磯崎　英夫	
S 22	川嶋　秀夫	
S 24	柴原　康茂	
S 26	秋田　清	
S 26	堀三矢之助	
S 27	斉藤　隆	
S 27	千々波天信	
S 27	森脇　利康	
S 27	森田　幸平	
S 28	増田　信	
S 28	水谷　智洋	
S 30	古川　昭一	
S 32	小出　政夫	
S 34	奥野　明	
S 35	菱田　司	
S 37	山田　岑生	
S 41	田中　節男	
S 42	竹川　俊幸	
S 43	世宮　利郎	
S 44	江崎　隆夫	
S 47	岡本　楠清	
S 48	橋本　晴行	

M科（一名）

H 3	出江　幸重

会員合計　五二名

理事会

総会議題を審議するため、本部総会に先立ち、六月八日（日）午前一〇時四〇分から母校百周年記念資料館二階大会議室で、平成一五年度理事会が開催された。

落合会長の挨拶に続き、本会報に掲載した総会の配布資料に沿って、一年間の活動状況として、会長が平成一四年度会務報告をされ、会計報告では年間四三〇万年の会費収入がないと、本同窓会が維持できないことを強調された。

斉藤希二会員が会計監査報告をされ、出席役員全員に了承された。

続いて、会員の表彰について会長案が了承された。

平成一五年度事業計画については、年二回開催される支部長・本部理事会議の開催時期が議論され、第一回は従来どおり商船学科の卒業式当日で良いとして、第二回をいつにするか、次の支部長・本部理事会議までに決定する旨、会長が説明された。

平成一五年度事業計画につき、母校の「海学祭」への同窓生作品展示はマンネリを打破するために一工夫する必要があることと、現在学校で行われている公開講座は、

受講者に有料で行わざるを得ない現状に鑑み、同窓会から参加者に何らかの支援をすることを会長が提案され、今後の協議事項とした。

また、奥神戸支部長が近藤翁碑周辺の同窓生による植樹の管理方法に問題があることを指摘されたことに対し、会長が今後も事務部長と折衝する必要がある旨発言された。

母校の将来問題につき、専攻科設置の必要性はどこにあるかにつき、菱田京浜支部理事が質問され、その問題点ともども会長が説明された。

役員の改選については、役員を六〇名に制限したことを会長が説明され、出席役員に了承された。

また、落合会長が次期会長を辞退する旨発言されたのに対し、千々波副会長が落合会長の継続を提言され、出席役員の異議なく、会長自身も了承された。

以上、一時間二〇分に渡り熱心に協議された本部案は、出席役員にすべて了承され、総会に計ることとなった。

理事会出席者は、左記の会員である。

会　長　落合　弘明
副会長　根本　明
　　待井　信一
　　片山　勝則
（新）菅原　昌男
　　松浦　肇
　　斉藤　隆
　　千々波天信
支部長　古川　昭一（本部・伊勢志摩）
　　田中　三郎（京浜）
　　堀三矢之助（静岡）
　　竹川　俊幸（名古屋）
　　中澤　昌信（四日市）
（新）奥野　明（大阪）
　　奥　正夫（神戸）
　　青木留次郎（九州）
理事　森　良雄（本部）
　　中村　武史（本部）
　　金田　譲（〃）
　　田中　節男（〃）
　　江崎　隆夫（〃）
　　岡本　楠清（〃）
　　橋本　晴行（〃）
　　上山　浩（京浜）
　　菱田　司（〃）
　　山田　岑生（四日市）
　　桑嶋　収平（神戸）
会計監査　斉藤　希二
　　以上二八名

懇親会

本年度の懇親会は、学校から場所を移してホテルで行われました。

総会終了後、所用のため早退された、斉藤希二氏・秋田清氏を除く会員五〇名と佐藤校長・林事務部長は、ホテル送迎バス二台に分乗して、鳥羽市安楽島町の鳥羽シーサイドホテルに向かいました。

多くの会員は、途中の安楽島近辺の変貌した景観に目を奪われつつ、午後一時半にホテルに到着。

乾杯の音頭は、はるばる九州から来られ、今回出席者中最年長のS14N・青木留次郎氏によって行われ、全員がビールで祝杯をあげました。

いつもながら、丸テーブルを囲んでの立食パーティーは、校長と歓談する人、旧友を温める人、情報交換をする人で熱気に溢れたものとなりました。

今回、懇親会場をホテルにしたのは、毎年各地で開催される支部総会がホテルで派手に行われていることに鑑み、本部総会もそれに見合うパーティーにしたいという落合会長の意図によるものです。

豊富な食材と各自の好みの酒類の提供は、参加全員に好評だったようで、今後の懇親会もこの方式をとることを本部事務局一同考えております。

なお、本懇親会のために、学校とS19E・村井憲次氏から過分のご芳志を賜りましたことを、紙面を借りて御礼申し上げます。

会員の叙勲

平成一四年度秋の叙勲において、左記の会員が栄誉を受けられました。

○勲五等瑞宝章
　S21N　廣瀬　春雄会員
愛知北農業協同組合（JA愛知北）組合長として、二〇余年に渡り、農業振興とJAの発展に貢献された功績に対し授与されたものです。

また、会員ではないが、平成一五年春の叙勲において、

○勲三等旭日中綬章
　元校長　手塚　俊一氏

が栄誉を受けられ、落合会長が祝電を打電しました。

なお、新聞等で報道されたように、今回の生存者叙勲を最後に、今秋から叙勲・褒章が見直され、数字の等級づけは廃止になりました。

会員の叙勲に際しては、同窓会本部事務局で情報を入手不能な場合もありますから、等級づけがなくなったことでもあり、ご本人は無論のこと、知人の叙勲もどしどし本部にご連絡下さい。

下村甚一郎 常任顧問の逝去

常任顧問・本部理事として長年に亘り同窓会に貢献されたS19/12E・下村甚一郎氏が、平成一五年五月二二日に逝去されました。

下村氏が平成一〇年一一月に制作され、百周年記念資料館一階ホールに展示されている「太平洋戦争戦没者顕彰銘板」は、氏の功績を最も顕著に表すものであり、我が同窓会の誇りとするものであります。また、一〇年以上に亘る、母校の海洋祭の同窓会作品展への瓢箪工芸品の出品は、多くの参観者の記憶に留められたことでしょう。

葬儀は、五月二四日(土)、鳥羽市の済生寺で行われ、落合会長をはじめ、以下の会員が参列しました。

（敬称略）

西川慶堂・中島好康・川村一男・斉藤希二・成瀬正雄・松本鴨生・秋田清・斉藤隆・中村武史。

また、生花を落合同窓会会長とS19/12E卒の有志が手向けました。

落合会長のボン・ボヤージュで終る長文の弔電で一同、氏を偲びつつ最後のお別れを致しました。

会員同士の結婚

平成一四年一二月に、左記の会員同志が結婚されました。

新家庭の門出をお祝い申し上げますと共に、お二人の更なるご多幸をお祈り申し上げます。

H7M　合山　隆弥
H11I　（旧濱口）志穂

なお、以前からお知らせしていますが、会員同志の結婚の場合、会報は新家庭に一部のみ送付し、会費も主人一人のみ納入することになりますから、ぜひ本部事務局にご連絡下さい。

会員の新刊書紹介

朝日新聞の連載記事や同窓会会報での報告で周知の事実であるが、この度、二年間で日本一周一万一千キロを踏破して見聞きした事や人々とのふれあいをまとめて出版されました。

著者にとっては、一九九七年五月退職記念に四国遍路を実施、その体験を綴った「歩く四国遍路千二百キロ」に続く二冊目の出版で、歩く意義と継続の力を溶いて説いておられます。

「風と歩いた二年間 私の伊能ウォーク」

S22E　西川阿羅漢　著

（株）現代書館出版

定価二、〇〇〇円＋税

〒一〇二―〇〇七二

東京都千代田区飯田橋三―二―五

電話〇三（三二六二）一三二一

著者の伊能ウォークでの活躍は、

「謙譲の人 海将山屋他人の足跡」

編著発行　枝栄会

責任執筆　岩下秀男

東京都八王子散田町一―一C―一二〇五

電話〇四二六（六一）四一九七

編著発行の枝栄会とは、山屋他人（皇太子妃・雅子妃殿下の曾祖父で元帝国海軍連合艦隊司令長官）の孫の集合組織で、S27E・飯山嘉昭会員はその一員であります。

山屋他人は、攻玉社と海軍兵学校で直にわが校祖・近藤真琴に学んだ母校に関係の深い海将であり、その事が本書の一五～二〇頁に記され校祖の教育方法や人となりも理解できます。

また、後に海軍大学校で自ら考案した艦隊決戦法が、後に日露大海戦を勝利に導いたT字戦法に繋がったなど、興味深い内容が格調高い文章で綴られています。

なお、本書は非売品のため、購読希望の方は、同窓会本部にご連絡下さい。

「海運特区」を神戸に作ろう

S29E　岡田紀代蔵（海事補佐人）

Ship & Ocean Newsletter No.64　二〇〇三・四・五発行

本論文は、現在小泉内閣のよる構造改革特区構想が進行する中、自国籍船の海外流出（フラッグアウト）を防止するため、海運産業が高度に集積し、海運行政、海事教育研究、船員供給機能が充実している神戸市を、第二日本船籍制度を核とする海運特区に定めるよう提言した、誠に時宜にかなった論文です。

その実現のためには、高度な政治力が必要とされるが、まずは本論文が海事関連産業界と商船教育界に周知されることが、一番に望まれるところです。

支部だより

北海道支部

支部長　桜井　明

北海道支部で御座います。本年度も宜しくお願い致します。毎度、春秋の支部だよりには具体的な件名もなく、活動の痕跡も無く、書く事も無いと言った状態で、意気消沈では有りますが、反面これが本当の平和かなと思ったりして自ら慰めております。北海道の会員の皆さんには本当に申し訳なく思っております。

北海道は広大な土地、清涼な大気、豊かな自然の恵み、自由で開放的な風土。日本の国土の約2割を占める北海道は、地域によって気象・風土が大きく異なり、それぞれに特色が有り魅力や長所を持っています。面積83、519㎢・人口密度68・2（東京＝面積2、164㎢・人口密度11、408・07）。こんな環境に二十数名の鳥羽商船同窓の会員が溶け込んでいるのです。正に大海の中の針の存在であります。昨年の暮れに一文連絡により互いの無事を確認し合ったばかりですが、それでも心もとなく思っている次第です。

現在、中国、香港などで、重篤な急性呼吸器感染症が流行しております。感染地域は広がり、目下台湾が危険な状態にある事が報じられています。この感染症については、新種のコロナウイルスが原因とされていますが、まだ病態が十分に解明されておりません。目に見えない細菌ウイルスの類は、我々には手の下し様の無いもので。これに類似するものに「BSE」牛の海綿状脳症が有ります、これが北海道で発見されて大変な騒ぎとなりました。英国で発生してEUに飛び火して「狂牛病」として恐れられたのですが、牛の中枢神経、延髄での空洞化、そして脳の組織がスポンジ状に見える事から、牛海綿状脳症と名付けられた牛の病気であります。北海道の畜産関係者は大変なイメージダウンと大きなリスクを背負ったのです。英国では1986年に発生して、88年に餌から来ると言う事がほぼ明らかになり落ち着きを見せた。これの原因はプリオンと言う事ですが、どんな物か分かりません。牛だけでなく人を含めいろんな動物に有ると言う事です。こちらもまだ安全宣言は出しておりません。まだまだ注意が肝要です。

話しは変わって、函館港にも初夏の太陽と緑が輝いております。メモリアルシップとして桟橋に保留してあった旧青函連絡船摩周丸が、昨年末からの改修工事を終えて、装いも新たに「青函連絡船記念館摩周丸」として、4月からオープンしました。煙突に国鉄時代の「JNR」も鮮やかに、就航時代の姿が蘇り、船内には資料の展示、映像・体験コーナー、くつろぎのサロン等も設けられました。一度ご来函下さい。

京浜支部

支部長　田中　三郎

どこまで広がるのかと心配させられた新型肺炎SARSに沈静化の兆しが見え始め、「やれやれ」との気持ちに包まれる昨今でありますが、みなさまはいかがお過ごしですか。

恒例の支部便りをお伝えします。

〈第1回同窓会京浜支部ゴルフコンペ報告〉

5月21日、早朝の取手国際ゴルフ場に野口元教官＋同窓生13名が集い、ゴルフコンペを開催しました。当日は天候にも恵まれましたので和気藹々のプレーとなりました。

結果は日頃の腕前（仕事振り）が顕れ、水谷龍さん（39N）が優勝を勝ち取りました。準優勝は可児紘之さん（39E）でした。来年も開催を予定していますので、みなさまのご参加をお待ちしています。

〈本年度支部総会案内〉

10月10日、東京駅北口の大丸ルビーホールにて支部総会を開催する予定です。総会の詳細はあらためて郵送いたしますが、予定表には「10月10日・支部総会」と記入しておいて下さい。クラス会とはちがい「あの先輩・あの後輩」との出会いも楽しいですよ。

〈訃報〉

私達京浜支部を永年にわたり牽引してくださいました青木佐加男さん（18E）と浅野和昭さん（19E）がお亡くなりになりました。お二人は、青春の塊「商船の日々」を大切にしておられ、後輩達の元気な姿を楽しみにしながら同窓会活動を推進してこられました。

感謝と継承の思いを重ね、謹んでお悔やみ申し上げます。

〈インターネットでの同窓会情報〉

全船協（全日本船舶職員協会）のホームページからアクセスしてみてください。ウエブ同窓会「この指とまれ」には、206名の同窓生が登録されています。こちらもアクセスしてみてください。

静岡支部

支部長　堀三矢之助

静岡支部及び同窓の皆々様には益々御健勝にて御活躍のことと拝察致して居ります。

さて、静岡支部では本年度もいまだ鳴かず跳ばずで、理事会も開いておらず支部便りのネタが有りませんが、次の通りです。

○　平成十五年度本部総会ご案内

末尾の各支部総会開催日欄にあります様に、今年も十二月第一日曜日（七日）に忘年会を兼ねて開催の予定をして居ります。年々出席者が減って居りますので何とかしたいと思っては居るのですが、盛況策は無いものでしょうか。十一月に出欠通知を発送しますので、大勢の参加を期待して居ります。

昨年の十二月一日の支部総会は、本部理事中村武史氏の来静を仰ぎ十二名にて小人数ではあったが、盛大？に行われました。ちなみに総会通知発送数七十二通、返信数五十八通、出席希望者十四名（急用欠一名、不明欠二名）でした。

○　本年度第一号同窓会報には間に合いませんが、七月二十六日に焼津新港で開かれる焼津市のイベント「オーシャン・ステージ二〇〇三」に合わせ、「海王丸」が来港します。セイルドリルの披露、二十七日午前九時一般公開、三十日出港予定。近くの有志を募って表敬訪問をするつもりです。

○　支部長の行動

三月六日、電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式当日の本部理事・支部長会議出席。

六月八日、十五年度本部総会及び理事会出席。支部会員の総会出席者三名でした。

名古屋支部

支部長　竹川　俊幸

新緑の季節も過ぎ、毎日の梅雨空蒸し暑い季節が続く今日この頃、世界情勢も安定せず日本経済も相変わらず暗い闇の中を迷走中の昨今ですが、雨の中に咲く紫陽花の生き生きした美しさに安らぎを感じます。

会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

名古屋支部活動報告

1、名鳥会懇親ゴルフコンペ

第20回名鳥会懇親ゴルフコンペがH15年4月5日六石ゴルフ倶楽部にて12名の参加で開催されました。参加人数が少ない感がありましたが、緑の中で楽しい一日でした。

成績は次の通りです。

優勝　中久木公彦（S40N）
G93　HC12　NET81

二位　福山　道夫（S41N）

三位　西浜　卓己（S54N）

次回は、幹事中久木　公彦氏にてH15年10月18日にダブルベリアにて開催予定としております。秋の一日、健康と懇親にゴルフ愛好家の皆様是非御参加ください。

2、名古屋支部総会開催

H15年5月23日、名古屋国際会議場レストラン「パステル」にて本部より会長代理中村理事に出席頂き開催いたしました。

H14年度活動報告、会計監査報告、及び新役員改選が行われ、滞りなく総会終了いたしました。総会終了後、直ちに右高昭二（S19E）氏の乾杯で懇親会にうつりました。久しぶりの出席、初めての出席の方々、総勢32名近況報告等良い時間をすごすことができました。

総会出席の皆様　（敬称略）

村井　憲次（S19E）
右高　昭二（S19E）
清水　芳美（S21N）
山本　茂（S22N）
松田　武二（S27N）
中村　研一（S28E）
岡　久志（S32E）
長谷川雅昭（S36N）
松浦　肇（S36N）
丹羽　幸彦（S41N）
成田寛太郎（S41N）
浦野　一夫（S41N）
内藤　広（S41N）
三輪　光治（S41N）
木俣　良雄（S41E）
竹川　俊幸（S42E）
小林　正司（S43N）
河本　友美（S44N）
宗接万太郎（S48N）
小笠原典城（S51N）
浅井　英輔（S52N）
加藤　伸吾（S52E）
西浜　卓己（S54N）
福村　吉則（S56E）
柳井　孝之（S56N）
山下　文夫（S60E）
中尾　洋介（H12N）
守屋　英孝（H12N）
東　和弘（H12E）
渡辺　徳治（S52N）
大沢　隆（S48N）
竹内　孝成（S60N）

次回も皆様お誘いあい、多数の出席と深い懇親の場としていただけるよう希望いたします。

＊長らく同窓会名古屋支部活動に御助力頂きました春口正一氏（S30E）が、このたび長野に引越しされました。今後のご健勝をお祈り申し上げます。

＊新役員は長谷川雅昭（S36N）氏に代わり小久保又五郎（S38N）氏が就任、西浜卓己（S54N）副会長、春口正一（S30E）顧問は、退任され他役員は留任となりました。

まもなく梅雨も終わり本格的な夏の暑さ到来の時期になります。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

四日市支部

支部長　中澤　昌信

同窓諸兄の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申しあげます。

さて、四日市支部では、去る6月21日にザ・プラトンホテルにて、同窓会本部から中村武史理事をお迎えし、会員40名で第41回四日市支部総会を開催しました。中村理事のご挨拶の中で、最近の母校及び他の商船学校を取り巻く状況等普段得られない情報を提供していただき、また母校生徒の活躍についてご報告いただきました。今後とも本部と支部間の意識の統一を計っていきたいと思います。議事については、全会一致で滞りなく終了し、懇親会では、支部総会初参加の会員の挨拶や、母校校歌・寮歌・練習船歌等の大合唱等々、笑いと熱気に包まれたひと時を過ごしました。

連日暑い日が続いておりますが、この暑い夏恒例の「四日市港カッターレース大会」が本年も8月3日に開催されます。当大会も今回で16回目を数え、「みなとまつり」のメインイベントとして定着しており、毎年一千人近い参加者が優勝を目指し熱い戦いが繰広げられています。今年もこの時期にあわせ、母校カッター巡航を8月2日から4日という日程で、四日市港へ受け入れることとなっており、母校学生にはこの「港まつりカッターレース大会」の運営に参加をしていただくとともに大会へも参加していただきます。

なお、例年どおり母校練習船「鳥羽丸」の一般公開及び体験航海が実施されますので、機会がございましたら是非四日市港へお越しください。また、寄港当夜は、支部会員の皆様のご協力により同窓宅へのホームステイを行うこととなっており、これも今年で連続8回目になります。

第41回鳥羽商船同窓会四日市支部定例総会出席者名簿

来賓

同窓会本部　中村武史理事

航海学科

S17N　末﨑　弘
S21N　中野　清文
S31N　来栖　利之
S33N　片山　勝則
S37N　石垣　三郎
S37N　中澤　昌信
S37N　藤沢　隆久
S38N　名倉　勝
S43N　菊池　俊秀
S55N　杉本　忠明
S55N　室　博也
S56N　田中　博繁
S59N　山木　聡
S60N　笠松　伴
S61N　坂井　孝行
H2N　待井　健治
H5N　渡邉　宏明
H6N　相良　球一
H6N　高橋　直樹
H6N　山下　幸恵
H7N　高橋智笑子
H7N　加藤　順二
H9N　杉野　隆徳
H13N　犬飼　和孝

機関学科

S13E　安田太津造
S17E　吉田　秀雄
S18E　北岡　万二
S33E　岡村　幸治
S35E　内藤昇太郎
S37E　山田　岑生
S43E　鈴木　敏行
S51E　畠山　実
S59E　鈴木　護
S59E　西村　譲治
S61E　西井　育央
H4E　伊藤　英樹
H9E　上野　雄樹
H10E　堀内　勉
H11E　岡山　雄一

合計40名

大阪支部

支部長　奥野　明

皆様お元気でご活躍の事とお察し申し上げます。

昨今景気の回復が何よりも望まれる所ですが、報道に依りますとここ大阪が沖縄に次いで失業率が高いとの事です。大阪梅田地区に勤務の関係で、朝夕ビルの屋上よりJR大阪駅周辺の様子等、毎日目にして居りますが現在、西梅田地区では吉本興行と阪神電鉄関係のビルが来年秋の完成めざし工事

中ですし、又市内あちこちで高層マンションが建築中です。今年は阪神タイガースの活躍がすばらしく、1000億円以上の経済効果があるそうで気分的には明るさが見えてきた感じが致します。年末に向かって大阪経済の上昇復活が待たれるところです。

去る6月8日、本部総会に於いて承認されました支部役員について下記ご報告申し上げます。2年間宜しく御願い致します。

副会長　S33N　菅原　昌男
顧　問　S23N　坂本　実
支部長　S34E　奥野　明
理　事　S39N　宮沢　鋭多
　　S48N　野村　錦生
　　S52N　岡室　孝美

支部総会は例年通り、11月頃の開催を予定しています。

「幹事会」も若い人に多数参加して頂き、適時情報交換し、支部の結束をより固めていき、今後の同窓会行事に商船学科以外の卒業生も、大勢参加されるよう呼び掛けて行きたいと思います。

神戸支部

支部長　奥　正夫

今年の神戸支部総会は、早々と五月十八日(日)に本部より中村武史先生（S39N）を迎え、例年通り神戸駅前のみ湊川神社境内の楠公会館に三七名が集まり、開催できました。

今回は母校の「独立行政法人機構」への移行を来年4月に控えているという、重い問題に直面している次期でもあり、出席の同窓は勿論、止むを得ず欠席の方々からも真摯なご意見、厳しいアドバイスが有り、総会は盛り上がり、支部長は勿論、支部役員は緊張の連続する総会であったことを会報を通じて全国同窓にお伝えしておかなければなりません。

又、この一年の神戸支部での死亡同窓三柱の中で、若い春木登志彦君（S56E）が昨年10月に逝去された事をお伝えし、ご冥福を祈りたいと存じます。

総会参加者は、次の方々でした。
（期順）
高山逸次・浅野和彦・西川真文・松浦輝雄・森本滝生・長谷川好道・大塩重夫・山本義勝・宮本喜弘・本岡忠孝・川辺恒夫・飯山嘉昭・梅村伸雄・稲葉二子夫・岡田紀代蔵・壁谷又和・青木孝之・江頭昭雄・小林公郎・中野健吾・桑嶋収平・奥正夫・片岡孝行・西村潔・岩崎敏嘉・佐藤紀男・小澤剛・飛田喜八郎・浅野幸義・濱口新次・中村武史・藤井俊明・鈴木正人・濱口基屋・永井春久・渡辺嘉春・大又育夫

尚、今回総会案内を出状（二四五通）した内、欠席とのご返事のあった同窓中、69期以前のシニア会員42名の方には、約一五〇通あった返状のコメント集（総会出席者用に準備したもの）を別途郵送しました。

次に、いつも元気溌剌の神島会ゴルフ大会の模様をお伝えしなければなりません。

6月12日、エースカントリーCCに12名が参加し97回大会を開催、江川三喜男（77E）さんが優勝。次回は9月下旬、取り切りの100回大会は十一月の予定ですので、我と思わん強者は幹事の腷（76N）さん＝☎〇七八―五九二―二四四五までご一報、参加申し込みして下さい。

九州支部

支部長　青木留治郎

会長様始め皆々様お変わりなく、お勤めの御事と、およろこび申し上げます。平素、何彼と御高配を賜わり厚く御礼申し上げます。全国の皆々様、お元気で御活躍の御事と存じます。又御闘病中の方々、一日も早い御快復を心よりお祈り申し上げます。

又、支部便りの季節となりましたが、当支部は此れと言う話題もありません。いつもながら美しい姿の海王丸が、五月十六日に門司港の市立観光ミュージアム「海峡ドラマシップ」のオープンを記念して、帆船をイメージした建物の前面の岸壁に着岸入港しました。当日は船長様も御多忙のため翌十七日に表敬訪問致しました。

商船大学の実習生八十名（内女性八名）でした。当日、午後セールドリルがあり、拝見して来ました。快晴で、風はごくかすかに岸壁より沖に向けてふき訓練日和でした。実に見事で、よくも短期間でこの様な見事な展帆…。本当に関心しました。小生の六十余年昔の海王丸での実習生活が懐かしく思い出されました。

旧知の船長様でしたが、御多忙のため長居は出来ず御挨拶のみにて退船しました。

二十日十四時、当港での行事も終り、横浜に向けての出港を見送りました。

海峡ドラマシップは、北九州市立で、開門海峡の歴史や、海峡レトロ通り等々を再現。関門海峡の内外を、操船シュミレーション装置で、商船漁船の位置関係等をリアルタイムで知る事が出来、一度は足を運ばれてもよいと思われます。

梅雨の季節も近くなりました。皆々様御自愛専一に。尚、当地区の総会は十一月の連休に致したいと存じています。

皆々様の御活躍と御健康を心より祈念してます。

クラス会

昭和37年　クラス会

S37N　中澤　昌信

5月25日(日)、クラス会を母校の所在地、鳥羽において開催した。

会場は、懐かしい鳥羽駅近くの鳥羽国際ホテル潮路亭で、東西からはせ参じたクラスメートはいずれも元気そのもの。前回のクラス会から10年ぶりであったが、なかには卒業以来はじめて会う者も、しばらく睨めっこをしお互いに名前を呼び合って大笑い。開会前から実に楽しそうである。

開会に先立って、亡くなったクラスメートの冥福を祈って黙祷。

今回は、御婦人同伴出席会員も4人おり（多少は慎ましやかに飲むのかなと思ったのですが？）、還暦を迎えた若年寄グループでは、アルコールの量はやや減るのではと思ったのは幹事の思い違い、大いに飲み大いに談じ酒量は予想以上、まだまだ元気なところは頼もしいかぎりである。

恩師の小田先生と小柳先生も快く御出席をいただき、多額のお酒代を賜り、来年

から年金生活に入ろうとする我々一同ただ感謝、感謝。卒業後40年を経過した今、両先生より老けて見えるものの、相変わらず口の悪い教え子に昔と同じようなチョビット厳しい教訓を加えながら、長時間に渡り御歓談をいただき、お疲れになったことと思います。

宴会が終わると、部屋へ集合して夜更けまで飲み・語り明かし、次回は5年後を約束して、翌日はあいにくの雨の中をゴルフ組と、懐かしい景色を再確認の観光にと出かけました。

〈出席者〉

来賓　小田　文雄　先生
　　小柳　款　先生
N科　石垣　三郎（同婦人）
　　宇野　満
　　落合　要蔵
　　川上　幹彦
　　川室　英明
　　冨野　靖（同婦人）
　　中沼　実
　　中澤　昌信（同婦人）
　　中島　章
　　野尻　進
　　樋口　毅
　　藤原　隆久
　　松本　学
　　山口　亨
　　和田　毅（同婦人）
E科　渡邊　錺治
　　浅野　幸義
　　河野　和夫
　　小島　健治
　　佐野　昌彦
　　槌谷　勇次
　　濱本　勇二
　　山田　岑生

昭和42年 本科卒同窓会

結城　勇

関東地区の同窓会は、20数年前から年1、2回開催しておりましたが、昨年の忘年同窓会の折、誰とはなしに来年の同窓会は鳥羽で開催してはとの提案がなされ、早速高橋君を幹事長として具体化されてゆきました。

鳥羽での開催については、今年で卒業して35年、まだ関西、中京地区との合同同窓会が開催されておらず、卒業以来関東地区以外の同窓生とは顔を合わせていない者も多数居り、55歳の今年は出来るだけ多くの同窓生が集まれるようにと鳥羽が選ばれました。

桜も七部咲きの関東地区から、3月29日8時東京駅に集合、サロンバスで東名高速道路、伊勢湾フェリーを利用して一路鳥羽に向かいました。車内では既に遠足気分で用意したビールが次々に空けられました。途中伊良湖では、伊勢湾フェリー所長金田君（旧姓日高君）と今回所要で参加できなかった柴原君ご夫妻とが待ち受け、記念写真を撮る事が出来ました。又、金田君がフェリーの特別室をアレンジしてくれ、フェリー船上でも遠足気分は続き、予定通り16時30分頃には同窓会会場である鳥羽の戸田家に到着しました。

関西・中京地区からの同窓生の殆どは昼過ぎには鳥羽に到着し、鳥羽幹事の溝井君が戸田家に案内し、夫々鳥羽の街の散歩や、専攻科時代の下宿先を訪問したり、中には35年前の食堂の付けを払いに行ったりで、関東地区同窓生の到着を待ちました。

いよいよ一同全員戸田家に会し、同窓会開始までのひと時、各自の部屋では宴会が始まりましたが、35年振りに合わす顔で、お互いその変貌に最初は名前と顔が一致しない者も何人か居りました。19時いよいよ大宴会場で落合先生をお迎えし、青木君の開会の辞で同窓会が始まりました。同窓会ではお酒が進むにつれてお互いの現況や35年の変遷など会話が弾みました。同窓生には25年間も町会議員をやった者や、運送会社、不動産会社、設備会社、寝具販売会社等自営している者、漁業組合長をやっていた者、陸上勤務で活躍している者、現役船機長等々、多士済々で35年の流れを感じさせました。同窓会の閉会にあたり落合先生が我々卒業生の思い出や、学校及び同窓会への思いを述べられ、先生が同窓会会長として学校に貢献して戴いている事を再認識すると同時に感謝の気持ちを新たにしました。同窓会の二次会はご夫妻で参加された奥様方を含め殆ど全員が金田君の紹介のスナックに集まり、カラオケでご夫婦でのデュエットや喉自慢の熱唱で時間が経つのも忘れて楽しみました。

翌30日は8時にバス、乗用車で戸田家を出発し、母校を訪問しました。学校では鳥羽丸船長の中村先生が日曜日にも拘わらず校門に出迎えていただき、記念館と鳥羽丸を見学させて頂きました。記念館では戦没された多数の卒業生名簿を前に戦争を二度と繰り返さない事を誓い、平和を祈らずにはおれませんでした。又、鳥羽丸ではその立派さに感銘したものです。整備され立派に変貌を遂げている母校を後にして伊勢神宮内宮に参拝しました。当日は奉納相撲があり武蔵丸、朝翔龍、無双山、千代大海等の現役横綱大関の参拝に出くわすというおまけまでありました。ここで解散する事となりましたが、次回は還暦を過ぎた頃に又同窓会を開催しようとの提案があり、それまでお互い元気で過ごすべく健康には注意しようと声を掛け合って関西方面、中京方面のクラスメートと別れました。

関東方面組は、朝熊山スカイラインから母校と鳥羽湾を眺めた後、金田・溝井両君の見送りをうけ鳥羽港からバスで11時30分のフェリーに乗船、東名経由東京への帰途につきました。

この二日間は、35年前にタイムスリップして共に過ごした青春に立ち返り、今ある自分をもう一度見つめ直す二日間でもありました。

〈出席者〉

青木　勇（ご夫妻）
高橋　俊夫（ご夫妻）
水野　仁（ご夫妻）
畑（家村）明生（ご夫妻）
山本　伸三（ご夫妻）
鬼頭　明生
宇恵　悟
海保　幸人
岡田　清
加藤　信一
濱田　肖介
安田　洋
西海　輝夫
小池　積
左子　康夫
金田（日高）譲
田中　清臣
橋本（早川）博司
溝井　昇
山下　邦文
結城　勇

（順不同）

学校だより

（平成一四年一一月～平成一五年六月）

◎校内マラソン大会

一一月二〇日(水)、午後二時から校内マラソン大会が行なわれました。

秋空の下、男子七km、女子五kmの堅神町内周回コースを、全学生が健脚を競い合いました。

三年連続三位以内入賞者として、M3森田啓佑君とI3清水由華さんが表彰されました。

◎体育大会

・一二月一四日(土)、第八回鳥羽商船杯争奪中学校バドミントン大会が本校体育館で開催されました。

近隣の中学校男子六校七チーム、女子九校一五チームが参加して熱戦が繰り広げられ、男女共に六年連続で小俣中学校が団体優勝しました。

・第五三回三重県高等学校総合体育大会は、陸上競技の部が五月三〇日(金)～六月二日(月)に三重県営総合競技場陸上競技場で開催され、男子五、〇〇〇m競歩に出場した、I3岡村和樹君が大会新記録で優勝し、六月二〇日(金)～二二日(日)に静岡スタジアムで開催された第五〇回東海高校総体に出場しました。結果は、自己新記録で見事優勝し、七月二九日(火)～八月二日(土)に長崎市で開催される、全校高校総体（インターハイ）に出場することになりました。

ヨット競技は、六月七日(土)、津市の伊勢湾海洋スポーツセンターで開催され、FJ級でSN3伊藤俊樹・S2小野太津也組が、シーポッパーSR級でSN3伊藤秀郎君がそれぞれ優勝し、総合でも本校が優勝しました。その結果、六月二一日(土)～二二日(日)に御前崎で開催された東海地区高校総体に、FJ級で伊藤俊樹・伊藤秀郎組が出場しましたが、惜しくも入賞はなりませんでした。

しかし、九月一二日(金)～一五日(月)に御前崎で開催される静岡国体には、三重県高校総体で優勝した三名が出場することになりました。

◎リーダーストレーニング

一二月二〇日(金)～二二日(日)、岐阜県の国立乗鞍青年の家で、リーダーストレーニングが実施されました。今回は新しい試みとして、スキー実習を企画し、学生会および各クラブの代表者三七名が参加しました。

金曜日の授業終了後、夜行バスで出発し、翌日午後から翌々日の午前中までスキーとスノーボードを実習し、午後再びバスにて現地を出発し、夜に学校到着という強行日程でしたが、学生達の自主的な自覚ある行動により、その目的を楽しみながら達成することができたようです。

◎各種催しへの出展

・一月二四日(金)、「産学官研究交流フォーラム・オン・キャンバス二〇〇三」が三重大学講堂（三翠ホール）で開催されました。

本校からはM科の北村・外山教官、I科の出江・江崎教官、S科の伊藤友仁教官と五年生一〇名が参加し、本校の研究を県内高等教育機関や企業の研究機関にPRし、かつ交流を深めてきました。

・五月二三日(金)～二四日(土)、「三重の二一世紀リーディグ産業展」が四日市ドームで開催されました。

本校からI科の出江・江崎教官が、競歩審判支援システム、タッチセンサによるバレーボール試合分析システム、中途失明者のためのペン入力ワープロシステムを出展しました。会場には、二日間で四千人を超える入場者があり、活発な技術交流が行なわれました。

◎入学試験

二月二三日(日)、入学学力検査が本校・名古屋・大阪の三会場で実施されました。

推薦と学力の合計受験者数は三二六名、入学倍率は定員一二〇名に対し二・七倍と昨年の三倍を僅かに下回りました。

例年、合格者の入学辞退者数を予測することが難しく、今年は結果としてS1とM1のクラス人数が49名と48名と、定員の40名を大きくオーバーしてしまいました。

◎卒業式

三月六日(木)、平成一四年度M・I科卒業証書授与式が第二体育館で挙行され、M科二八名、I科三七名の卒業生の一人一人に佐藤校長から卒業証書が授与されました。

近年、卒業式における学生の態度の悪さが問題になっているため、在校生については主に担任教官を中心に私語の禁止・服装点検等の指導を行ないました。

しかし、その盲点をつくように肝心の卒業生が突飛な服装（武士の上下に帯刀、モーニングにシルクハット）をし、多くの来賓の失笑とひんしゅくを買いました。

一部の卒業生にしろ、その知性・品位・感性の欠如は憂ふべき状態で、指導の必要性を痛感する次第です。

◎一級小型船舶操縦士養成施設に母校が指定

かねてから一級小型船舶操縦士養成施設の申請を行ってきましたが、商船高専では初めて平成一五年三月一四日付けで、国土交通大臣より同施設（指定番号：高専一小(一)第一号）の指定を受けました。これにより、本校の商船学科学生には、卒業時に一級小型船舶操縦士の免状が与えられます。

◎入学式

四月九日(水)、平成一五年度入学式が挙行されました。

商船学科に四六名（うち女子三名）、電子機械工学科に四六名（うち女子五名）、制御情報工学科に四〇名（うち女子一四名）の計一三二名の新入生が、高等教育を身に付けるため入学しました。

◎留学生および編入生

今年も次の二名の留学生がM・I科三年生に入学しました。

ズル・ハフィジ・ビン・ヤアクブ（マレーシア）M科三年生

インドラ・ヘルマワン（インドネシア）I科三年生

また、京都洛陽工業高校電子情報科卒業の徳田紳伍君が、I科四年生に編入し、二名は四月八日(火)の始業式で全校生に紹介されました。

◎新入生オリエンテーション

四月一七日(木)～一八日(金)、新入生オリエンテーションが昨年同様、奈良県の（独）国立曽爾少年自然の家で実施されました。

二日間とも晴天に恵まれ、今年初めて行ったハイキングも桜の満開の下で汗を流しました。一年生一三二名（一名欠席）は、新入生同志のコミュニケーションを図ると共に、学生生活に関わる基本的なルールを学びました。

◎新任教官と退職教官

●新任教官

・新池一弘教官（Ｉ科助教授）

昭和五一年四月から平成一五年三月まで京都市立中学校と高等学校教諭。本年三月、京都工芸繊維大学大学院博士後期課程工芸科学研究科情報・生産科学専攻を修了して、本校の制御情報工学科に四月就任。

・増山裕之教官（Ｍ科助手）

平成一三年三月、筑波大学大学院工学研究科博士課程を修了後、筑波大学（機能工学系）助手を経て、平成一五年四月、本校電子機械工学科に転入。

●退職教官

・舟橋三雄教官

昭和三九年四月、本校が高等学校の時代に教諭に就任以来、三九年間の長きに渡り、学生の歴史教育を担当された他、寮務主事・一般教育主任・図書館長の要職を歴任されましたが、本年三月に定年退職されました。

なお、退職後は本校名誉教授になられると共に、非常勤講師として、引き続き学生の歴史教育に携わられます。

・北村一浩教官

平成一二年三月に筑波大学大学院博士課程工学研究科を修了して、同年九月から本年三月まで二年半、本校の電子機械工学科助手として勤務されましたが、本年四月、郷里の長野工業高等専門学校に助教授として転出されました。

◎各種資格試験への挑戦

現在のカリキュラムでは、資格試験に合格すると、それに関連する教科の単位が取得できるということもあり、不況下の就職戦線を乗り切るべく、学生は各種資格試験に挑戦して、良好な結果を得ています。

一級海技士（航海）	
ＳＮ５	八名合格
二級海技士（航海）	
ＳＮ５	一二名
一級海技士（機関）	
ＳＥ５	一名
二級海技士（機関）	
ＳＥ５	三名
三級海上無線通信士	
ＳＮ５	五名
実用英語技能検定試験	
二級　ＳＮ５～ＳＮ４	三名
準二級　主にＭ科	四名
ＴＯＥＩＣ　七〇〇点以上	
ＳＮ５	二名
ディジタル技術検定試験	
二級　情報部門　Ｉ科	六名
パソコン利用技術認定試験	
二級　Ｉ・Ｍ科	一二名
情報処理活用能力検定	
一級　Ｉ５	一名
二級　主にＩ科	七名
基本情報技術者　Ｉ科	六名
初級システムアドミニストレータ　主にＭ・Ｉ科	六名

◎施設・設備の拡充

次の四つの設備が導入されました。

・流体可視化実験システム

可視化により定性的な確認をし、データの取得により定量的な確認をすることにより、流体特性の理解を深める目的で、二、七八三万円で設備が更新されました。

風洞一式（本田工業㈱製）と各種測定機器一式は、Ｍ科学生の流れに対する総合理解を可能とし、講義や卒業研究で活用されます。

・レーダ・ＡＲＰＡ指示装置

操船シュミレーション装置に、レーダ・ＡＲＰＡ指示装置一式（古野電気製）が一、二六〇万円で装備され、Ｓ科の実験実習と卒業研究で活用されることになりました。

・パーソナルコンピュータ四五台

従来の演習室のコンピュータは、購入から既に七年経過して、現在のスペックでは、最新のＯＳやソフトウェアは無論のこと、インターネットでホームページを閲覧することさえ不自由するため、最新のＰＣ環境を整える目的で、㈱日立製ＦＬＯＲＡ三一〇Ｗ　ＤＡ二を六〇八万円で更新しました。

・六ｍカッタ

主にカッター部の女子学生が女子レースの練習に使用する目的で、６ｍカッター（六人漕ぎ、ＦＲＰ製㈱ツボキヨット製）が、二七六万円で購入されました。教育や研修等の各種行事にも活用されることが期待されています。

◎講演会

・二月二一日（金）、㈱リクルート名古屋支社の山口夏紀氏をお招きして、四年生を対象に「就職に関する心構えと模擬面接」を指導していただきました。不況下の就職難の時代にあって、学生は真剣に講演を受けていました。

・六月一二日（木）、三重大学附属図書館・情報管理課長の気谷　誠氏をお招きして、教職員を対象に「利用者の立場から考える著作権」と題する講演をしていただきました。

著作権法の概要と、実際にそれが適用される場合とグレーゾーンにつき、実例をあげ解りやすく解説していただきました。

・六月一八日（水）、春季講演会として、三重県警察少年課の米野浩之氏をお招きして、「薬物乱用について」の題目で、一～二年生に講演していただきました。

学生は、煙草・酒から各種麻薬まで、豊富な映像と標本や器具類を見ながら、その弊害を学びました。

◎クリーンキャンパス活動

二月一九日（水）と六月一三日（金）の両日、教職員と一～三年生が参加して、午後の約一時間、校内と学校周辺及び通学路のゴミ拾いを実施しました。肉体労働の喜びと奉仕活動の心を知るのが目的ですが、六月一三日は雨天のため、校舎内部のみの清掃となりました。

また、これに先立った六月五日（木）、同窓会落合会長が手配した済美学園による近藤翁記念碑周辺の除草が行われ、六月八日（日）の同窓会総会に備えました。

中村　記

寄付金・同窓会費納入一覧

（平成十四年十一月十六日～平成十五年六月三十日）

寄付金

合計　五、〇〇〇円

総会寄付

鳥羽商船高等専門学校　二〇、〇〇〇円

S19E村井　憲次一〇、〇〇〇円

一般寄付

S27E千々波天信　五、〇〇〇円